



未知の路



理事 中林 秀人

先般行われた令和5年度総会にて再度当会の理事を務めさせていただくこととなりました。改めてよろしくお願い申し上げます。

前回の「路」が広報誌に掲載されたのは約2年前で新型コロナの真ただ中。先が見通せないことに一抹の不安を感じつつも、会員の皆様方のご理解とご協力のもと「路」を歩んでまいりました。そして、本稿執筆時では新型コロナの第9波を懸念する声も聞かれますが、総会後に4年ぶりに対面で行った永年勤続表彰と、その後の祝賀会には大勢の保育士等の方が出席し、盛大に開催できたことは誠に喜ばしい限りでした。

ところで先日、わが市で先輩の叙勲による祝賀会がありました。当日は大いに盛り上がりその勢いで二次会へ。会場はほぼ満席でかろうじて空いている席の隣には隣町の大先輩で元理事の方。「ここに座るのはちょっと…」と気が引けたのですが、さりとして代わりの席もなく、ご本人の「どうぞ」というお言葉に甘えて座らせていただきました。そして丁度良い機会と言っては憚れますが、これも何かのご縁と思い、その方の記載した「路」の内容が忘れられず、ずっと心の中に残っていること。その文章を今でも時折読み返していることをお伝えしたところ、こちらの存外に喜んでくださり、私も昔年の思いをお伝えできたことが嬉しくなって互いに杯を酌み交わし、祝賀会によるお祝いムードの中、楽しく充実した時間を過ごすことができました。

振り返ってみると、私とその「路」を読んだ時から10年以上がたちました。団体の形が変わるようにそこに関わる人々も少しずつ変わってきました。しかし、組織の形や活動は時代と共に変化をしても、それをきっかけとした人とのご縁はそう簡単に変わるものではないでしょう。

そして様々な会議に出席し、いつの間にか増えてきた次世代の方とお話しをしていると、「私は保育のことはよくわからない」と言う声を聞くことがあります。謙遜があるかもしれませんが、多少はその通りかもしれません。一言で保育といっても奥深い「保育の路」。保育（給食）の実践や保育の制度、保育の歴史など学ぶことは多岐に渡ります。私事ながら最初に保育団体の会議に出席したとき、話のほとんどがチンプンカンプン。「ヤバイ、何を言っているかほとんどわからない！」と思ったことも、今となれば恥ずかしくも懐かしい思い出です。

本稿をお読みくださる次世代の方でも、もしかすると「団体活動に興味はあるけど、自園のこともあるしなぁ〜」と思う方。「私は人見知りだからちょっと…」という方もいらっしゃるかもしれません。

そんな方へナイスタイミングと言っては失礼かもしれませんが、青年委員会では現在、来年度に開催される「第43回全私保連青年会議東京大会」に向け、新規会員を絶賛募集中です！この青年委員会は保育関係者の若手で構成され、年代や境遇の似たお仲間が多く在籍しています。令和の時代に同期の桜は古すぎますが、「未知であった保育の世界から、新たな保育の路を共に作っていく」のも面白い話かもしれません。実際、既に数名の方が入会されたとの話も聞いています。

このような青年委員会ですが、ここで次世代の方に向け、伊崎青年委員長からのメッセージを紹介させていただきます。

「超少子化、こども家庭庁開庁、こども基本法・こども大綱制定、こどもまんなか社会…かつてなく子どもをめぐる環境の中で「保育」は最先端で子どもと接しています。そのような保育の若手が結束することで、未来の「路」を切り開いていきたい！目まぐるしく変わる保育界で若いうちから仲間を作っていくことは、今後更に厳しさを増すであろう保育業界を、共に生き抜いていく力になることだと思います！」

青年委員会いちOBの意見ではありますが、次世代の方との更なるご縁と活躍を楽しみに、これからも東京の質の保育の向上と、当会の発展に寄与していきたいと思っております。